

第四節 災 害

異常気象によるものに風水害と旱魃、またそれに伴う天候不順による虫害あるいは地震等の災害もあるが、最も多いのは風水害と旱魃である。

遠い昔の災害は、記録のみでその詳細を知ることができないし、その記述も関西・四国・伊予とあって、この地方での実状が果たしてどうであったかということとは知ることができない。

気象観測が発達した今日では台風の来襲に際し、その進路・被害等もおよその予測はできるが、愛媛県下でも東・中・南予と大別することが可能な気象状態下にある。

わが町における災害の主なものをできるだけ少範囲に絞って松山藩、町内の記録、また個人の日記に残るものによって調べて見た。

前記記録の外にも他の史料と照合して、确实視されるものはこれを加えていることは無論である。

1 明治17年 8月25～26日台風と高潮

「愛媛県史概説」によれば、中心気圧720mbの台風が沖縄西方より九州北部を通り鳥取県境港附近より日本海に出たもので高速度であった。「郷土誌稿本」にその模様が次のごとく記されている。

雨24日より終日止まず時を追うて風雨共に劇しくなる25日午前8時頃より大豪雨川水は溢れ川沿いの耕地は蒼海の如く堤防の決潰数ヶ所に及ぶ午後7、8時の刻に至り風雨共に其極に達す海浜は怒濤に洗われ海水の浸入正に震天動地の感あり市街の過半は潮水と雨水の浸すところとなり26日午前3、4時頃に増加す8、9時に至り水量稍々減退し夕刻になり始めて平常に復す

浸水面積85町6反9畝15歩内荒蕪地となりたるもの48町3反7畝23歩

浸水家屋328内倒壊せしもの34戸人の浸水せしもの896人内死者2負傷85

家畜の浸水せしもの55頭、牛3馬2即死

家禽即死 36羽

別に台風による高潮被害図が残っていてそれには、

潮入反別 46町6反9畝11歩 倒家40 流失8 破失20 半倒15

内 荒地2町7反4畝14歩

収穫皆無14町8反9畝16歩 外=堤防破損ヶ所 10ヶ所

幾分被害25町7反3畝26歩 但此延長 520間

潮入宅地6町3反1畝15歩

溺死人 2人 内男女各1 溺死牛馬 2頭 牛馬各1

根倒折樹木 42本 破壊船舶 50石未満 5

内目通5尺廻り以上 6本

〃 以下 36本

とある。風水害によるものと、高潮被害を区別しているものと思われる。

高潮被害図に示された浸潮区域は、

- 1 北浜 沿岸住宅地全域
- 2 新田 全耕地に及ぶ 林医院附近まで
- 3 市街地 高潮浸水 本町の線まで
- 4 港附近 三本松、松山街道迄収穫皆無となる
- 5 その他 高潮による浸潮は井手を逆流して意外の所まで被害を残した堤防決潰

1 浜本町海岸「オダイバ」より北へ新田海岸180間

2 蔵本下 23間

3 新田潮取口 2ヶ所

荒蕪地

1 田尻 船溜り附近一帯

2 前田尻 〃

3 西浜より新田迄沿岸一帯

4 北浜沿岸一帯

台風及び高潮による被害者の救助について次の申請書が出された。文面によれば

8月25日に加えさらに9月17日再度の被害があった模様である。

救助米御下渡願

一、家族拾人 内男三人 女七人

右者明治十七年八月廿五日夜景風非常暴潮ノ為メ災害ニ罹リ家財不残流失仕赤貧之者ナレバ目下忽チ生活ヲ失ヒ難渋無極素ヨリ他ニ財産ト云ハ僅ニ地所ヲ所持スト雖モ是以全村□田与□方ヘ抵当ニ致居リ自分之所有ニ在ナカラ自由ナラズ誠ニ当惑仕候条實際情実御鴻察ヲ以テ救助米御下渡被成下度此段奉願上候也

野間郡浜村三百六十六番地平民

□ 田 □ 七

明治十七年八月廿八日

越智野間郡長 黒川通成 殿

前書願出ニ付取調候処申立之通事実相違無之仍テ保証仕候也

明治十七年八月廿八日

右村戸長 在 間 茂一郎

(別紙) (朱書)

書面願之趣聞届日数三十日分救助米九斗代金四円三拾八銭壹厘支給候条速ニ受取方可申出事

明治十七年九月十三日

越智野間郡長 黒川通成 殿

右関係書類 被害者 25名 内18人北浜地区 7名西浜及田尻

救助米御下渡願

一、家族八人 内男四人 女四人

右者昨明治十七年八月廿五日及九月十七日両度非常暴風暴潮之災害ニ罹リ家財不残流失仕忽チ生計ヲ失ヒ難渋無極折柄一時有志者之義捐米金等ニ依リ漸ク是迄生命ヲ保全スト雖モ目下ニ至リテハ忽チ飢餓ニ迫ルノ窮民トナレリ然テ素ヨリ極貧者ナレバ他ニ財産更ニ無之何ヲ売却シテ糊口ヲ凌グ目的不相立將又親戚隣保ノ者モ同様貧窮者ニテ何レニ依リ教育ヲ受ル事不能誠ニ当惑仕候条實際困難ノ情態御鴻察ヲ以テ救助米御下渡被成下度此段奉願上候也

野間郡浜村式千三番地内三番屋敷

□□ 杉 □ 八□郎

明治十八年六月廿三日

越智郡野間郡長 黒川通成 殿

前書願出候ニ付取調候処申立之通事実相違無之仍而保証仕候也

明治十八年六月廿三日

右村戸長 在 間 茂一郎

(別紙朱書)

書面願之趣聞届金貳円六拾五銭貳厘支給候条受取方其戸帳役場へ可申出事

明治十八年八月十日

越智野間郡長 黒川 通成

以上の被害者申請数32名 内北浜地区18名 西浜地区10名 田尻地区4
家屋流失4 倒壊3

2 明治26年10月14日台風と豪雨

「歌仙村郷土誌」に、

明治26年10月ノ大風洪水ハ山腹ヲ押流シ最モ甚ダシキハ 180 間余ノ山崩レ、川上ニテ人家1棟、松尾ハ全4棟特ニ川沿ヒニアリシ本村役場及ビ小学校ハ瞬時ニシテ流失シ書類其ノ他器具器械悉皆濁水ノ呑ムトコロトナル村及ビ個人合セテ損害1万2,500円被害状況左ノ如シ

浸水地面17町8反余 荒蕪地トナルモノ5町9反余 浸水家屋35
流失7人 230人 負傷3 家畜6

と歌仙村の状況を伝えている。

同年は田植え以後85日間、降雨なく大旱魃、月半ばより山の雑草に至る迄枯れたために牛馬を風早郡米之野あたりへ預ける者もあり、農家の困惑は一通りでなかった。

10月10日終日強風に加えて大雨となり初夏以来初めて川水が出、喜びも束の間止む気配は更になく、降りつづく豪雨に人々は恐怖のどん底につき落とされた。14日午前10時頃最も強い豪雨となり堤防は各所で決潰未曾有の災害をもたらせた。

11時東雲橋(加茂橋前身)の上、下堤防決潰と同時に橋も落ち倉谷長野鶴松氏方脇の輿休めの大松流失のため対岸50間決潰、泥水は田中前へ奔流した。菊間大橋も流失し小学校の上手切れて上町に浸水、また橋の下左岸よりは新田地区を泥海にした。夕刻になって漸く小降りとなったが15日になって始めて快晴となる。

18日付「愛媛新報」第1499号は菊間地区の被害を次のとおり報じている。

菊間川ノ決潰

野間郡菊間地方モ去ル10日来天候険悪、小雨降り初メシガ13日ノ午前8時頃ヨリ強風トナリ午後12時頃ヨリ東北ノ暴風起リ雨ハ益々強ク14日午前第3時頃ヨリ風雨共

ニ層一層ノ激甚ヲ極メ樹木ヲ倒シ屋瓦ヲ飛シ拂曉ニ至リテ雨足風勢益々劇シク菊間川ハ奔流怒濤各所ノ堤防決潰家屋ハ流失シ田畝ハ砂礫ト変ジ其ノ停止スルヲ知ラズ逐ニ以下列挙スル如キ惨状ヲ呈セシム

○歌仙村大字川上ノ被害

田面川ニ沿ヒシ部分ハ悉ク水害ヲ蒙リ流失シテソノ形ヲ止メズ山岳崩壊ノタメ如何トモナシ能ハザル山田、畑ハ30有余町ナリ家屋ノ流失2戸半潰1戸橋梁ハ皆流失セリ

○同村大字松尾ノ惨状

被害ノ状況ハ菊間川流域中最モ惨胆ヲ極ム其決潰箇所ハ字茶ノ元ヨリ字山崎ニ至ルノ間延長320間幅員67間余道路田面ノ別ナク共ニ山ナス水勢ヲ埋モレ学校村役場巡査駐在所及ビ人家7戸納屋1戸都合11戸流失シ忽チ変ジテ河流トナリ山岳鳴動シ人心恟々今尚ホ堵ニ安ンゼズ

○同村大字高田

堤防ノ決潰3ヶ所30間、80間、100間、家屋ノ流失5戸倉庫2棟、山岳崩壊ノ為メ馬1頭庄死ス 田面9町余流失シ浸水14町余アリ

○同村大字池原

堤防悉皆決潰シ田面凡ソ14町余砂礫ノタメ埋没シ人家流失8戸半潰1戸負傷1名アリ

○菊間村大字浜

南北ノ堤防ノ決潰11箇所170間80間100間15間8間95間20間80間20間100間30間(上流ヨリ順次下流)ニシテ泥水奔流シテ菊間村ニ入レリ折シモ海岸ハ怒濤激浪ノタメ打破ラレ汐水浸入シ洪水ト海嘯ト相和シタレバ村民ノ狼狽一方ナラズ幼ヲ背負ヒ老ヲ扶ケテ笠松山ニ上ルモアリ敵島神社ニ避クルモアリ泣号悲哀ノ声ハ天ニ震フ有様ナレバ朝来水田村長友近分署長ヲ初メ皆々防水ニ救助ニ手ヲ尽スモ何シテ非常ノ洪水ト津浪ト一時ニ起リタルコトナレバ如何トモスルコト能ハズ村内ハ床上1尺余ニ及ビ深キハ4尺・17町余ノ田面ハ砂礫ヲ残シ退水セシハ14日午後8時ナリキ当日流失セシ家屋ハ7戸半壊10戸ソノ他壇壁ノ破損倒伏無数死者1名負傷10名船舶破壊11隻

後日11月15日片岡侍従を水害視察に御差遣郡長警部2名巡査、村総代随行し、菊間より松尾を経て竜岡に向った。

水害後再び旱天続き12月5日 113日振りに小雨あり

翌年3月21日大雨被害地再び災害を受ける

8月11日～12日暴風雨のため再び決潰し、復旧工事いづれも振出しにもどる

3 大正15年7月7日豪雨洪水

松山測候所発表

昨夜来の豪雨は950mmの低気圧が朝鮮海峡より瀬戸内海に入り松山地方を通過して土佐沖へ出たためこの豪雨を見るに至ったもので当所は、6日午前10時これを予測し「風雨強し」の警報を出しておいた。しかるに不幸、その的の中を見、午後2時30分より降り続いた雨量は七日午前10時過ぎに241mm すなわち1坪3石9斗3升にして其の中最も強かったのは7日午前1時より午前2時の間における25mmであった。

而して7日の雨量は午前10時迄に131mmを量り、明治23年以来の最大量で大正8年7月4日の分と同量である。なお7日午前10時後多少の降雨があつたので7日の雨量が最大量となる訳である。

しかしこの降雨は、本県のみならず山口、大分、高知諸県も相当の被害があつた模様である。

松山測候所において坪当り3石9斗3升を計量しているが、当時の新聞に金星町側より被害実況を写した写真の説明に「今後の水害の最も激甚地と伝えられる越智郡菊間町に於いて坪当り5石5斗(300mm)といわれ、写真は小学校児童の被害地の手伝風景」とあつた。

被害状況、田	流失埋没	25町	畑	流失埋没	2町
	浸水	125町		浸水	8町
	減収米	1,800石		作物	5,400円
免租	1年~3年免租	3年~10年免租	10年~15年免租		
	田	41町3反		畑	10町9反
					3町3反
	畑	1町6反			
被害箇所					
河川堤防	決潰ヶ所	50	延長	1,000間	
	欠損ヶ所	250		1,250間	
県道	決潰ヶ所	2		80間	
	棄損ヶ所	25		225間	

町道	決潰埋没	400	2,400間
	棄損ヶ所	100	5,000間
海岸	決潰	1	15間
樋口	決潰	1	
溜池	堤防破損	10	
水路	破損ヶ所	80	10,000間
住家	流失崩壊	15棟	
	浸水	750	
非住家	流失	1	
	崩壊	95	
橋梁	流失	5	
	破損	1	
立木地		2町	
被害金額	総計	41万3,600	

4 昭和9年9月21日旱害と室戸台風

昭和9年の天候は特に異常で、突発的な天災が次々と発生した。まず5月13日電害で、タバコ、梨、蜜柑等に相当の被害を受けたのを始めとして、6月6日大風により刈取直前の麦の倒伏に加えタバコ、梨に再び大きな被害をもたらした。

気象の上では、5月中の降水量は平年の3分の1、6月は極端に少なく田植え時期になっても、用水不足のため植付不能が続出し全く手の下しようもなかった。

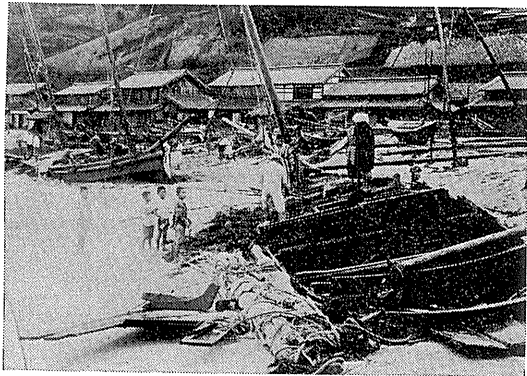
7月13日14日の両日僅かの降雨があつたのみで、この対策として町は揚水ポンプ及び原動機購入については2割を補助し、応急対策に全町あげて取り組んだ。8月20日現在で植付終了したもの262町8反、植付を放棄断念したもの11町7反に及んでいる。植付けたとはいいいながら、田面は亀裂し、枯死寸前のもの152町8反、亀裂を免れているもの80町、^{カブスイ}湯水程度というのは僅か30町歩であった。

8割以上が減収見込で28町3反となり水稲作だけでなく、陸稲2町6反、大豆9町5反小豆4反8畝、粟11町6反、甘藷30町、西瓜13町(メ10銭)、除虫菊18町の

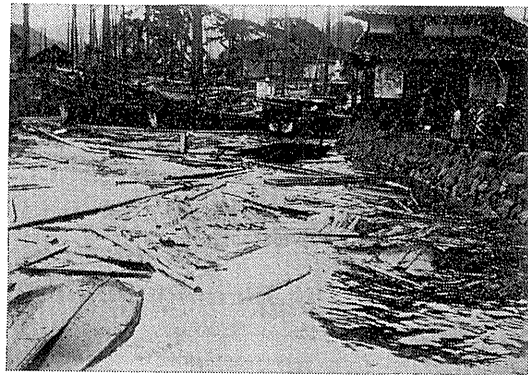
ほかにみかん49町(28銭)、ネーブル4町7反(36銭)、夏みかん3町2反(10銭)、梨18町(20銭)の果樹蔬菜類の被害の上、さらに養蚕農家の桑園22町5反にも及び、被害農家戸数は703戸を数えている(うち486戸は戸数割平均以下の者)。

旱害応急対策として、田地内に用水井戸を掘り手押ポンプ又はツルベを使用するもの241か所に及んでいる。一方、部落では伏流水のある所を選んで大型井戸を掘り、動力ポンプ使用25か所、発動機によるもの29か所を新設している。

用水の確保のため井堰の新設補修135か所を計画し、改良堰21の新設が町内で初めて行われた。



室戸台風 田尻船溜



室戸台風 菊間港内港

また、旱害救済資金によって恒久対策土木事業費、総計6万1,000余円を以って、溜池7、同拡張4、農道水路の新設水路井堰の改修と共に揚水池新設が計画された。

未曾有の旱害被害につき9月13日、本省より事務官の視察があった。片寄った天候は次に室戸台風となって襲って来た。直接台風の進路よりははずれていたが、9月21日午前5時四国に上陸した時は最低気圧684mbと観測され、当時陸上で観測した最低気圧の世界記録で超大型台風であった。

特に風害による被害は、梨4町6反4割減収水稻100町及び蜜柑15町は1割減、柿

500本は5割減収となっている。水害は水稻1町7反井堰3畦畔決潰171か所であった。21日午前2時より5時に至る僅か3時間に荒れ狂う怒濤のため港湾施設や船舶に甚大な損害を与えた。

築港破損13m、田尻漁港破損7m土砂堆積のほか全壊又は沈没した漁船は15隻を数え、打瀬船10、貨物船3、小型漁船6、発動船3、釣船23、合計45隻が半壊となった。

ほかに港内で帆船10t1隻、15t1隻は沈没し、そのほか宝寿丸、住栄丸、幸福丸、八幡丸も町外で罹災している。

船舶被害総額1万5,640円人員49名で、瓦の積荷が沈没したもの3名があった。御下賜金、各新聞社各種団体の義捐金、郷土出身兵士よりの見舞金等がこれら罹災者に配分された。消防組、水難救済会支所、青年団のほか、人命救助災害防止等について大木仁太郎ほか10名の人々が表彰されている。

5 昭和25年9月14日キジャ台風

7月20日グレイス台風、7月28日ヘリーン台風、8月13日アイダ台風、9月3日ジューン台風について9月14日のキジャ台風と昭和25年は台風の当たり年であった。940mbをもって9月13~14日に九州に上陸し、横断の上中国地方の西端をかすめて日本海を北東進し、北海道へ去ったコースであった。

松山で南々東の風14・2m、雨量は163mmを記録している。

風は9月13日午前11時20分より吹き始め14日午後3時17分風向は南東後西北

雨	午前11時30分より	14日午前11時20分まで
出水	8時40分より	午後12時まで水位1.5米
潮位	0.68米	波浪高1.35米

被害報告

浸水家屋	床上42床下346	非住家	床上12 床下87
町道	破損1 30米	橋流失	2 破損4
堤防	破損2 200米	港湾	2ヶ所 250米
浸水	田4,000ヘクタール	畑	500ヘクタール

公共建物半潰 1 (歌仙小学校) 長坂岩坂池決潰37米オモ高池半壊

水防実施 13日午後6時～14日午前1時30分

出動 消防団200人 その他250人

資財 俵吹2,000 自動車3 手車

その他

浸水家屋に対し見舞金県知事1万円町1万円

被害調査では

10月18日 建設省査定官 23日本査定

10月19日 運輸省査定官によって行われた

6 昭和27年7月9～11日豪雨

6月23日のダイナ台風は特に雨を伴い、7月3日東予沿岸部に梅雨前線の活動によって豪雨に見舞われた。後、またまた7月9日より11日にわたって再び梅雨前線の停滞と活動に町内に相当の被害を残した。

特に10日西山、長坂、高田の地域に被害が大きく、当時「長坂時化」といった。菊間小学校観測では181mmを計量している。

家屋半壊 6 浸水家屋 床上111 床下640

田 冠水 90町 流失11町 埋没20町

畑 流失 30町

農道 52ヶ所 1万300米 水路48ヶ所 1万5,000米

橋梁 16ヶ所 井堰 19ヶ所 溜池 2ヶ所

被害総額見込 1億1,320万円

災害査定結果は次の通りとなっている

農林省関係 井堰、池、橋、水路、農道、農地 55ヶ所

建設省 〃 河川1、道路3、橋3 7ヶ所

愛媛県 〃 24ヶ所

長川決潰、鉄道不通11日今治土木事務所長は交通不通のため小松、松山經由にて被害調査に来た12日災害対策本部設置、中学校生徒、被害地及び葉山、東雲地区(岩瀬前)へ勤労奉仕に出ている。

7 昭和28年5～8月長雨 6～7月台風 7～8月旱魃

長雨被害状況

麦 作付総面積203.6町 未刈取面積67町 刈取面積136.6町

運搬済面積15町 流失面積11町 埋没5町、現に田にあるもの110町 1反

刈取時期面積

5月末 33.5町

6月1日 10町

2日 10町

3日 40町

4日 16.6町

煙草 作付面積 140町 被害面積140町

流失分1町 埋没分0.1町 浸水1町 風水害12.8町

減収 50㍻ 50㍻ 100㍻ 600㍻ 合計800㍻

金額 6万円 6万円 13万円 75万円 合計100万円

6月7日 2号台風

気圧986mb、四国北岸を東北東に進む松山南東8m雨190mm、6日夜半豪雨144mm

8日105mmで水害を伴った。

家屋浸水600戸 田畑流失1町5反 冠水129町3反

農道 36ヶ所 水路22ヶ所 井堰6ヶ所 護岸4ヶ所 橋1(更生橋)

蔬菜被害

流失2町 埋没3町 浸水1町 風水害13.5町 計15町 減収1万5,000㍻

雑穀20万円

果樹減収4万㍻ 300万円

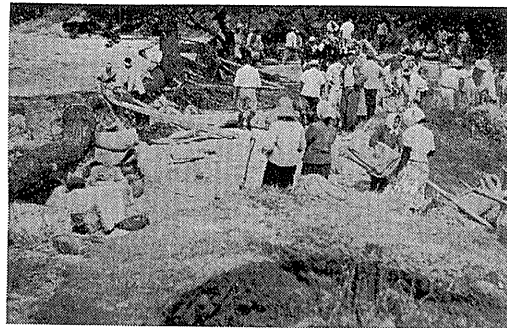
被害総額見込、1,880万円

8 昭和29年9月26日15号台風

8月19日の台風5号(940mb)は、鹿児島に上陸後九州横断四国北部を掠めて東北東へ去った。先年のキジャ台風と同型であったが、気遣った程の被害はなか



台風15号 新地



台風15号 北浜海岸

ったもののこれを皮切りに9月に入って13号9月8日、12号9月13日がいずれも近接している。

26日午後2時大隅半島に上陸した15号台風は、前記3台風よりは中心気圧968mbで劣っていたが、特に風が強く当地では沿海部に近来稀に見る甚大な損害を与えた。

時速40kmで宮崎県愛媛県を経て日本海に出、さらに勢力を増して北海道にせまり青函連絡船洞爺丸の海難事故となった。

風力松山南24.7m菊間小学校観測所では雨62.4mmである。

午前6時、風は猛威を振り、逆巻く怒濤に海岸の道路は一瞬

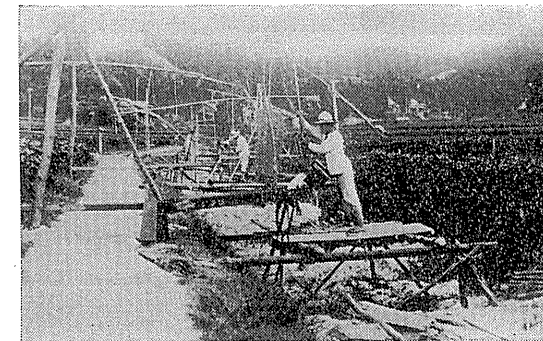
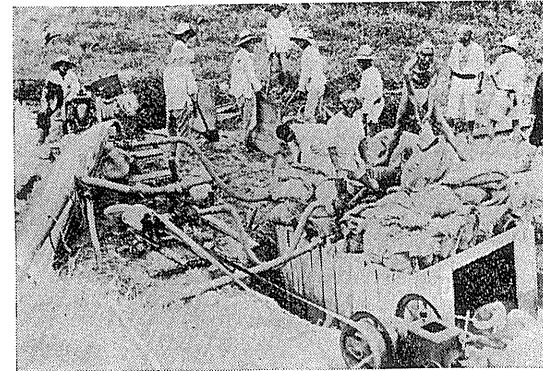
にして跡形もなく流され、頑牢を誇ったパラベットの方塊など数mも浪に流されて行った。

西海岸地区2か所、田尻地区では長崎のハナ附近は道路の痕跡さえ残さず、海岸の岩盤があらわれて道路開設前の浜伝いに歩いた昔の姿を再現した。

一方、それまで砂浜となっていた所は、家屋、耕地を問わず波によって運ばれた土砂が堆積し、埋没した所も多かった。また反対に昭和21年12月南海地震以来、地盤沈下により変貌した海岸が、この高汐により海岸にあった松林耕地等を悉く洗い流し一変してしまった。

菊間川右岸が決潰して、北浜地区の人々は八幡神社に避難したが、これらの人々には町より炊出しを行った。

9 昭和42年7～10月大旱魃



(旱害対策に日夜奔走する)

昭和42年夏、西日本一帯は80年振りという異状干魃に見舞われた。7月9日、西日本に集中豪雨がありこの附近でも波方町関前村宮窪町などで9人の死者があり、田尻で汽車が脱線し不通となったりした。それ以後10月5日に至る87日間一粒の雨もなかった。

時代の寵児として脚光を浴びた蜜柑も、未曾有の自然条件に抗する方法はなく、日々にその精彩を失ってやがて落葉し、枯死への運命をたどってゆくものが続出した。

10月3日干害非常事態宣言をして対策本部を設立、12月23日には被害者に対する町民税の減免に関する条例を定め

る等して異常事態に備えた。

果樹旱害は当町において4億6,000万円に達している。

9月22日ごろのミカン被害見込3億6,000万円の40% 1億4,400万円

水害10町歩 560万円の50% 280万円

旱害対策

岡山農政局係官来町 66ヶ所査定

激甚災害融資対照 405戸 2,090万円 農業所得 180万円以下
被害10分の3以上

溜池改修 1,300万円

天災融資法九州四国へ適用、10月30日干害被害255億と発表されている。

10 昭和43年2月14日豪雪

2月14日の午前中より15日に降り続き町内20cm山間部50~90cmの豪雪、交通は14日昼過ぎより鉄道ダイヤが乱れ始め、漸く菊間までたどりついた上り列車は動けず、婦人会員町職員らは200人分の炊出しを行った。道路上は立往生のため乗り捨てた車で混乱を極め、町内の学校は15日午後休校した。積雪による倒木、電柱



など無数。町土木課においては町内のブルドーザーを総出動させ、西山、中川河内道路の除雪作業を行なって幹線道路のみは通行可能となったが、河内高野牧場では乳牛飼料の運搬ができぬため、農協、町職員が救援隊と組織して危機を救った。



午後1時停電となり翌16日夕刻一部のみが復旧した。有線放送施設では80回線2,150戸の通話が不能になり、ようやく3月1日現在約3分の1の25回線が通話可能になり、全線の回復は3月中下旬の見込みという甚大な損害を受けた。18日になっても列車は間引き運転で、27日に至って12日振りに復旧した。

3月8日ごろまでは根雪が消え去らなかった。

果樹被害 6億600万円
山林 7億2,100万円

有線施設 1,071万円
工事費393万6,000円 原材料657万1,000円

有線電話についての被害は次のとおりである。

加入 1,998戸 94ブロック
被害 1,714戸 81ブロック
無害 284戸 13ブロック
有線使用料免除計画
5日以内 なし
10日 3分の1
20日 3分の2
21日以上 全免

11 昭和45年8月21日10号台風

南太平洋で発生した台風10号は北上して8月21日午前8時、高知県須崎市に上陸し11時ごろ当町に接近し、鳥取県米子市を経て日本海海上に去った。

松山測候所で中心気圧970.9mb雨量125mmを記録した。当時来町中の建設省技師は、松ヶ崎において瞬間風速44mを観測している。菊小観測所では38mであった。

午前6時より午後6時まで災害対策本部を置き、防災に万全を期したのであったが、文字どおり愛媛県を直撃したコースであったため想像外の大被害を蒙った。

人的被害 負傷5名 内2名重傷
家屋 全壊1 半壊4 一部破損537 床下浸水53
文教施設4 港湾関係3 船舶21隻 有線放送93回線
被害世帯 595戸 人口2,379人
損害額 文教施設 338万円
農林関係 1億200万円
公共土木 270万円
その他
公共事業 360万円

農産物 2億5,000万円

またこの台風による被害者町税減免に関する条例が9月29日に決議された。列車は午前8時より不通、停電は午前10時より夕刻まで。

竜ノ口の坂では自動車が強風のためハンドルを取られて転落し、30万円の損害を蒙っている。

12 昭和47年9月8～9日豪雨

9月8日、午前8時30分より翌9日午前8時30分にわたって今治市を中心に集中豪雨があり、菊間小学校観測所で149mmを記録している。

被害 家屋一部破損15 床上浸水15 床下浸水427
冠水40ヘクタール 畑流失埋没15ヘクタール 道路破損236
橋梁4ヶ所 水道2ヶ所 崖くずれ21 鉄道不通2
通信被害8ヶ所 山崩れ63 農水路42 溜池21

農林水産施設 1億9,555万円 公共土木施設 1,189万円 その他 60万円
農産被害 6,065万円 林産被害 30万円 商工被害 3,000万円 その他 402万円
総計 3億290万円

9月30日災害特別委員会を結成、被害者町税減免に関する条例を設定した。
被害総額3億円を超える10年来の豪雨であった。9月14日、県対策本部次席、
9月22日、耕地課長が現地視察を行っている。

第五節 地震

特に昭和21年12月21日の南海大地震(マグニチュード8.1)によって、水準点の検測の結果、菊間町で288.3mmの地盤沈下があり、今まで海水の浸入しなかった海岸部では、パラペットや樋門等による海水の浸入対策がとられ、高潮時の降雨排水のため排水ポンプを設置した。

1 安政の大地震

古老が伝える地震の話となると、口をそろえて出るのが「安政の大地震」である。その始まりは嘉永7年11月4日、江戸大地震、5日及び7日松山大地震、百姓家半潰共1,273、土蔵納屋1,038、郷蔵101、田畑道路橋202、加えて道後温泉の泉源止まると松山藩は幕府へ届け出た。

「加茂社記」には次のように伝えている。

- 11月4日 辰刻 中ゆり
- 5日 申刻 大地震半時斗^{ハツ} 酉戌刻両度大ゆり
居宅土蔵^{ツツ} 夥敷^{ハツ} 崩れ土地所々大いにひらき或は穴あき泥水^{ナド} 杯吹出す海辺沙際へ穴あき150尋も綱を入れ候ても届き不申趣、当国道後温泉止る、少しも不^レ出
尚池内永常記には
- 5日 タ7ツ時大地震、浜村オ倉破、人家大痛、菊間御庫元不^レ残家根痛ム同夜大地震4度小震不^レ知^レ 数凡ソ25度ト云フ
- 6日 朝両3度 同未刻大ゆり
- 7日 巳刻前 大 未刻中 同夜戌刻前と子刻と両度
- 8日 辰刻 小
- 9日 夜半頃
- 10日 寅刻
- 11日 辰刻
- 12日 戌刻
- 13日 寅刻両度、辰刻、酉戌刻
- 17日 未刻
- 18日 未刻 子刻
- 24日 酉刻
- 25日 辰刻より大風雷鳴雨降
- 11月27日 安政と改元する
- 12月朔日申刻地震 2日酉刻 3日申刻 5日酉刻 10日午刻 12日酉刻中2、3度
14日夜半頃地震 18日暁卯刻前両度 19日卯刻 20日亥刻 21日辰刻過地鳴亥刻にも小地鳴

右大地震に付諸社御祈禱昼夜打続有之御上を始御代官所よりも郡々旧社に而御祈禱寺社共自力御祈禱教ヶ所野間郡に而者乃万神社池原金毘羅社2ヶ所江御代官所より御祈禱有之其外者自分々々心得前を以て奉仕に而祈念致候事

明けて安政2年正月18日夜五ツ時大地震を始め、正月中に4回の中震があり、爾後4、5、7、8月には1回ないし4、5回の地震があった。(月日省略)

2年後の安政4年8月25、6、7日3日間に亘り大地震があり、次のごとく記されている。

巳刻大地震所々土地ひびわれ居宅屋根落つ所々の土崩れ井戸潰れ或は小宅は崩れもあり四ツ後終日毎度動く同夜兩3度同断、27日3、4度となっている。この一連の地震をさして「安政の大地震」といった。

2 北海道大地震

昭和21年12月21日午前4時19分、終戦後の虚脱状態の人々にさらに追い打ちをかけるように地震が襲って来た。これは我が国にあっては最大のもので、かつて覚えぬ大地震であったが、その後瀬戸内海沿岸には地盤沈下が顕著になった。建設省地理調査所(現・国土地理院)では昭和23年3月22日から1か月にわたって水準測量をした。

その結果新居浜附近で55cm、郡中30cm、高縄半島では当地を含めて25cmの沈下が確認されている。

この地震で被害の大きかったのは、徳島、高知の両県で、愛媛県では道後温泉の湧出が止まり、壬生川、松前などを始めとして海岸の民家の倒壊があった程度だが、地盤沈下のために思いがけぬ被害が次々と現われ始めた。

沿岸の米作地帯に海水が浸透し、その上飲料水に塩分が入って飲めなくなる等、しだいに後遺症が見られるようになった。

砂浜がせまくなり潮位の上昇のためにパラベット工事や護岸強化のために、海岸の状況が一変するほど海岸保全と上水道施設などで、否応なく巨額の工費の支出が必要であった。

第六節 災害年表

風水害、旱害、附飢饉年表

年月日	年	旱	水	風	不作	その他	出典	具	体	例
寛文3.7	1668	旱魃					松山叢談	7月	大山寺、久万雨乞踊	道後八幡雨乞
5.7.4	1665		洪水				加茂社記	野間郡雨乞	大井諏訪社16俵	
10			〃				松山叢談	17日~27日	石手川決潰	
13.6.	1673		〃		長雨					
延宝元 5.14	1673		〃					今治地方洪水		
2.4.11			〃					〃		
3					キキ		松山叢談			
4.6.11			〃				加茂社記	野間郡代官吉田李左衛門加茂社雨乞		
6			〃					御礼として神殿新築		
8.8.25			〃					今治宇和島洪水		
貞享4.9.9	1687			大暴風				東予地方大暴風		
元禄13.6.12	1700		〃				加茂社記	代官所雨乞	加茂社15俵	
15.7.28				大風			松山叢談	松山城鯨落ちる	城山松318本倒木	
								潰家2,432		
11.26				〃				風害2回分救助米野間郡へ500俵		
								伊予郡3,000俵その他		
宝永元 7.13	1704		〃					諸郡痛あり		
18				大風				〃		
9.28				雨				〃		
4.8.19				〃				〃		
5.5.6				〃				〃		
								松山大風雨	破損数々	
								今治大暴風雨		
正徳元	1711	〃					加茂社記	郡方より	大井八幡社雨乞	
享保元 6.8	1716			〃			松山叢談	松山領大風雨		
3.1						大雪		〃	伊予郡積雪3尺	

						百姓西条 小松領へ逃散大騒動
安永 4.9.9	1775	〃				加茂社 大井八幡社 郡中雨乞12俵
6.6.4		〃				〃代官所雨乞10俵 浜八幡 大井八幡 九王竜神 4俵
9.7.21		〃				西12ヶ村より加茂社雨乞 佐方八幡 中道3ヶ村 大井八幡東7ヶ村 池原金毘羅 大井諏訪社 郡中より雨乞
天明 3.8.11	1783	大雨洪水			松山叢談	松山領洪水 大雨の損耗 24,930石 届出
4.6		〃			加茂社記	3日より大井八幡社代官所 13日池原金毘羅社郡中 8俵 19日より波止竜神社 21日遍照院 4俵 浜八幡 4俵 11~12日大雨 大川筋痛む
7.11		〃			〃	当夏早魃 田畑不熟 損米16,428石 届出
5夏		〃			松山叢談	
10		〃			〃	松山大風あり 八股榎1本吹倒す
6.7		〃			稲虫 加茂社記	6月1日九王竜神雨乞 代官所、虫痛浜村 4社詣り 26日稲虫退散祈禱 加茂社代官所 7日間 8俵
7.4		長雨			〃	神宮野間神社 止雨祭 代官所
6		〃	大不作		〃	6月19日代官加茂社参拝祈願 諸国麦作 2、3分通り取レ申候 余リ珍敷故記シ置ク
7		〃	〃		〃	豊作祈願 御初穂秋米ニテ 2俵 浜村百余人通夜
寛政元 6	1789	〃				雨乞 加茂社代官所10俵 大井八幡社 5俵
2.6		〃			〃	全上 御礼共15俵 6月神宮野間社 7月宮崎九王 大井諏訪社 8月波方玉生社
		〃			松山叢談	遍照院 猷珠院 掌禅寺 高仙山雨乞 御領分当夏早魃 田畑不熟損耗届74,508石
12		〃			加茂社記	不作ニ付見付改メ庄屋御役御免トナル者多シ

						宮脇 神宮 矢田 杉田 百姓西条 領へ逃散(15日間)
						12月郡中安穩祈禱 代官所より加茂社へ10俵
4.5		〃				加茂社雨乞 代官所 8俵
7.26		〃			暴風雨	浜村より雨乞共々虫祈禱
					稲虫	7.26御領分大風雨 損耗届52,609石 届出
8					不作	〃 御領内雨続き不熟損耗14,593石届出
6.6		〃			加茂社記	不作改メ方嚴重 庄屋組頭処分多し
		〃			〃	加茂社 大井八幡社 代官所雨乞 大井諏訪社 波方玉生社 佐方八幡 九王竜神 各方角雨乞
7.6		〃			〃	。和気郡白石竜神 藩内10郡雨乞
10.7		〃			〃	郡中雨乞 加茂社 5俵
		〃			〃	5月神宮野間社雨乞 7月加茂社 九王竜神 郡中雨乞12俵 御礼米 2俵
11.8.19		〃			〃	18.19日 大雨大風大痛出来申候 各橋落ちる
12.4					凶作	松山叢談 加茂社記 松山領分御損耗届出67,015石 麦作アカテ病大痛 代官所五穀豊饒祈願祭 加茂社
享和 2.4	1802		長雨			代官所より止雨祭 加茂社にて執行 5俵
文化元 8.29	1804				大風雨	松山叢談 御領分雨風 損耗36,058石
2.8		〃			加茂社記	郡中加茂社雨乞 8俵
3.7		〃			〃	6/24加茂社郡中雨乞 8俵 大井八幡全上
		〃			〃	7/3 遍照院 8月西浜と大井浜両所 雨乞 寺 社 山伏
4.5		〃			松山叢談	当夏早魃 御領内損耗13,432石
8		〃			加茂社記	郡中雨乞 加茂社 5俵
		〃			〃	止雨祭を行ウ
5.6		〃			松山叢談	雨続き不熟 14,593石損耗届出
		〃			加茂社記	大井社 加茂社 郡中雨乞 神宮野

6. 6	〃				〃	間社にも 加茂社雨乞 代官所より12俵 郡中より8俵 浜八幡 金毘羅社 献珠院 大井八幡 九王竜神 神宮野間社 波方玉生社など雨乞 大井浜 西浜2ヶ所 寺院雨乞 宮崎にて山伏 。恒例の祭礼行事も大儉約
7. 1			大不作		松山叢談 加茂社記	御領分旱魃 損耗届出76,358石 前年不作加えて天候不順 祈年祭を郡3社(神宮 大井 菊間)と遍照院にて執行 各5俵
7	〃				〃	加茂社雨乞 代官所5俵
8. 6 ~7	〃				〃	全 代官所5俵 郡中5俵
9. 5	〃				〃	全 代官所5俵
21	大雨				〃	暴風雨 洪水被害甚だし
10. 5 ~6	〃				〃	代官所雨乞 加茂社7俵 神宮波方にも
8. 3				虫害	〃	代官所稲虫退散祈禱 5俵 加茂社
11夏	〃				〃	郡方雨乞 加茂社8俵 大井八幡 波方玉生にも
					〃	西12ヶ村 池原金毘羅社雨乞 6俵
12夏	〃				松山叢談 加茂社記	旱損46,107石届出 5月加茂社雨乞 8俵郡中より 大井 神宮へも
13. 4			凶作		〃	加茂社 野間社 郡中安穩祈願 郡方より
14. 7	〃				〃	郡中雨乞 加茂社8俵 野間社へも
					松山叢談	損耗届出21,160石届出
文政4. 7	1821	〃			加茂社記	郡方雨乞 10俵 大井八幡へも
22		〃			〃	大雨23年振りの大雨但し西粟井坂東今治まで
5. 5				稲痛み	〃	稲痛みはげしく大井八幡にて郡方祈禱
6夏	〃				〃	大日照 松山千人踊 加茂社雨乞 郡方10俵 西12ヶ村5

文政6夏	大旱魃	大不作		松山叢談	俵 野間社 大井諏訪社 玉生社 郡方より雨乞 別に村々氏神に雨乞 松尾滝にて雨乞 祭礼行事大儉約 定例の御初穂も手形 5月~7月旱魃 重信河原 水喧嘩 2,000人 旱魃損耗 116,258石届出
7. 2				加茂社記	稲作豊穰祈願 郡方5俵加茂社
8	〃			〃	加茂社雨乞 〃 5俵
8. 4. 21				虫害	〃 蝗虫退散祈願 〃 〃 野間社へも
6. 3		暴風雨		松山叢談	松山大雨 家屋損害316 堤防694 道及橋1,590 池753 山崩1,024 倒木338 死傷7 水害損耗 41,421 石届出
7. 8	長雨			〃 加茂社記	稲作不作 浜村郡内第1の虫痛み 8月除蝗五穀成就祭 郡方より8俵 野間社へも
9. 5. 21	大雨			〃	田地山林大痛み 大洲領特に甚だしきと伝える
7	洪水			庄屋日記	川筋入用木山守立会 伐採松952本 松葉243把
10. 4	長雨			松山叢談	石手川洪水 大風雨届出 55,978石 届出
				加茂社記	加茂社 五穀豊穰祈年祭 郡方より 5俵各地洪水
11		不作		松山叢談	損耗46,444石届出
12		〃		〃	〃 53,727石 〃
10		〃		〃	〃 28,238石 〃
13		〃		加茂社記	10月歳敷御陰約筋被仰出甚神祇道不本意之事=被存候 新年祭恒例ノ初穂米老俵手形 正月御上触
				松山叢談	酒造米3分の1とし酒造道具3分の2は役人改めの上封印 損耗21,930石届出

天保2.3 夏	1831	"	"	大風 大雨	加茂社記 松山叢談	止雨祭執行 当夏大風雨 損耗16,024石
3.6.9 14		"	"	大雨	加茂社記 "	7年振り的大雨 堤防決潰数ヶ所 再度大雨 大川筋田畑被害あり
8		"	"	"	"	6月15日以来雨降らず大旱 大井八幡 九王竜神 遍照院雨乞 損耗13,091石届出
5.8		"	"	"	松山叢談 加茂社記	6月16日以後雨なし 加茂社雨乞 郡方7俵
7		"	"	凶作	松山叢談	損耗届出31,899石
8.2~3 3.27		"	"	長雨 凶作	加茂社記 "	2月3月雨天続き度々大雨 代官所より止雨祭 郡方より1万人 詣 鳥居内百度詣り
5.6		"	"	"	"	7年以来天候不順 悪病流行 餓死 者モ多ク有之
9.9		"	"	不作	"	鎮疫祭 6/2~4日迄 さねもり藁束 にて人形をつくり村中廻す
5.21		"	"	大雨	"	山分(旧歌仙 西山 長坂)不作 祭事 神楽 中止
天保10.7.24		"	"	旱魃	松山叢談 加茂社記	大雨 山林家宅崩れ流田など大痛み 人も数多被害 損耗20,190石届出
11.7 14		"	"	長雨	加茂社記 松山叢談 加茂社記	加茂社 郡方雨乞 7俵 野間社全 上 浜八幡 金毘羅社 歌仙滝 無 宗天 高仙 池原石領など雨乞 損耗33,536石届出
弘化元8	1844	"	"	洪水	"	大井社止雨祭 稲苗クサル
3.5 7.9 18		"	"	大風 大雨	歌仙郷土 誌 加茂社記 松山叢談	堤塘ヲ崩シ人家ヲ流亡スル 郡方雨乞 池原金毘羅社 九王竜神社 暴風降雨 被害多し 松山領大風雨 樹木家屋被害 死者14
4.5		"	"	"	加茂社記	代官所雨乞 九王竜神 神宮野間社
嘉永元6.12 13	1848	"	"	大雨	"	前年以来村役人と百姓対立 長坂 高田 川上にも波及する

3.6 7		"	"	長雨	"	凶作	"	昼頃大川筋数ヶ所切レル 5月中旬 以来各地被害 死者川上1 九王3 長坂馬1 17日代官水損視察 麦 あかて被害甚大 螟虫発生 6月雨 続き 7月すむしあかて 松尾村殊の外の犬痛み 秋祭神楽延引 10月代官交代 稲作 見分
5.5		"	"	"	"	"	"	代官所雨乞7俵(手形) 郡方九王竜 神 池原金毘羅 代官見分 大旱魃 郡方加茂社雨乞7俵 野間 社 竜神社 (九王及波止浜)
6.7.10		"	"	"	"	"	"	
安政2.7 3.7	1854	"	"	"	"	"	"	郡方雨乞 加茂社雨乞 松山領11郡より 九王 竜神
8 4.8.16		"	"	"	大風 雨	"	"	大井八幡 神宮野間社 玉生八幡社 野間 風早 和氣3郡 高潮
5.9		"	"	"	"	"	"	稲虫除蝗祭疫病祭加茂社 5俵 大 井 神宮 波方へも
6.7		"	"	"	"	"	"	" " コレラ病流行
万延元6 2.6	1860	"	"	"	"	"	"	" " 郡方雨乞 代官所雨乞 神宮へも
慶応2.8 3.7	1866	"	"	"	大旱 魃	"	"	風雨順時悪病除祈禱 郡方 大井神 宮 波方へも 郡方代官所雨乞、外各村々共
明治2 3.10.1 12		"	"	長雨	"	暴風 雨	大不 作	県 誌 歌仙郷土 誌、気象
4.7.5 6.6		"	"	旱魃	"	"	"	加茂社記
8.29 10.2		"	"	洪水	"	"	"	1~5月雨なし 稲 そば 大豆 小豆育たず 田植4割 6月9ヶ村雨乞 7月第十大区(12 郡)雨乞
		"	"	"	"	"	"	今治 家屋流失60 半潰48

6. 2. 10			折損木多し
7. 6	〃		山崩れ 土砂埋没多し
10. 13	〃	台風	風水害、高潮など
7. 7. 2	〃		今治浸水300戸
8. 12	〃		日向灘停滞
8. 4. 26	〃		松山中心として被害
10. 20	〃		枕崎上陸 宮崎より愛媛県通過 豪 雨7~10時 高潮 高波 屋島丸沈 没 加茂神社祭当日
9. 5. 13			タバコ 梨 蜜柑
6. 6		大風	タバコ 梨 麦被害甚大
8	〃		7、8月雨少し 祈雨祭2度
9. 21	〃	台風	室戸台風気圧684ミリ(別記)
10. 6	長雨		6/27~7/2連続大雨 水害 タバコ 稲 蜜柑 梨 蔬菜
8. 9		〃	風水害を伴う
11. 2. 4		大風	電柱被害特に目立つ
9. 25		台風	716ミリ
12. 9. 11		〃	水害
11. 10			〃
13. 6. 14	豪雨		
7. 5			
14. 7 ~8	〃		5~8月降雨少し 植付不能10町 作物枯死53町
15. 7. 8	〃		越智郡下特に甚だし
16. 8. 15		〃	
10. 1		〃	風水害
17. 8. 27		〃	高潮 冠水 浸水120町 9/3内務省 調査
9. 21		〃	足摺岬上陸 東子400ミリの所あり
18. 7. 24		〃	西日本記録的豪雨 肱川大災害
9. 20		〃	宿毛より四国上陸県下全般風水害
20. 9. 17		〃	枕崎台風 被害甚大 特に風強し
10. 10		〃	阿久根台風 東子特に豪雨 波止浜 355ミリ
			山崩、人家多数被害

21. 7. 29		〃	
23. 8. 26	豪雨		中南予劇甚
24. 6. 21	〃		デラ台風 時速60km 風力強し 日 振島漁船大悲惨
25. 7. 20	〃		グレイス台風
7. 27	〃		ヘリーン台風 床下浸水 174 田浸 水8,200ヘクタール 畑流失6,600ヘ クタール
9. 3	〃		ジューン台風越智周桑郡水害めだつ
9. 14	〃		キジヤ台風浸水388 堤防450m 農 道 1,800m 畑浸水 20町 歌仙校 被害
26. 7. 1	〃	〃	ケイト台風四国横断 風強し
7. 7 13	〃		梅雨前線停滞断続豪雨各地共被害多 し
10. 14	〃	〃	ルース台風 豪雨強風
27. 6. 23	〃		ダイナ台風 雨強し
7. 9 ~11	〃		7/2以降毎々豪雨 長坂川決潰葉山 岩渕前埋没 1億1,320万円 家屋半壊 6 床上111 床下640 冠水田90町 埋没20町 流失11町 7/21以降雨少し
8	〃	〃	
5	長雨		2号 タバコ140町 蔬菜15町
28. 6. 7	豪雨	台風	6日夜144ミリ7日105ミリ各地水害 浸水600戸 流失1町5反 冠水129 町 1,880万円
7. 8	〃		7/23~8/27 畑作みかん被害
9. 25		〃	13号
29. 1. 24		暴風	西日本一帯 沿岸 高潮
8. 18		台風	5号 雨95ミリ沿岸部高潮浸水
9. 13		〃	12号 学校休校 新地西浜浸水 川 下高潮
9. 26		〃	15号台風 風強し 沿岸高潮被害田 尻パラベット浸水38 川下右岸決潰 北浜八万社へ炊出し 被害甚大28日被害救助法発動
30. 6. 18	〃		

9.30		台風
10.4		
31.1.29		暴風
7.3	豪雨	
8.17		台風
9.10		"
27		"
32.6.27		"
7.7	"	"
9.7		"
33.4.23	"	
34.1.6		大雪
17		"
7	"	
8.8		"
9.26	"	"
35.1.27		寒波
6.22	"	"
8.29	"	"
11.27	"	寒波
36.9	"	"
37.1.23		雪
6.14	"	
6.15		濃霧
38.1.9		大雪
16		寒波
5.16	長雨	
6.13	"	
8.9	"	
31	大雨	
39.1.19		大雪
3.27	強風	

22号台風 29.30暴風雨 高潮
 23号台風 豊後水道より山口県 高潮
 果樹落果 高潮浸水
 6/30~7/3迄
 9号台風 風害あり
 12号台風 7月以来強雨
 15号台風
 5号台風 特に雨強し
 1週間梅雨前線停滞2日より100ミリ近くの降雨時々あり
 今治~菊間に被害多し 町内西山及亀岡甚大 特に雨の被害
 4/21~23 7月中旬~8月上旬
 海陸交通マヒ
 各学校臨時休校
 県干害対策本部設置7/7
 6号台風 高潮被害
 15号台風(伊勢湾台風) 豪雨
 県下襲来久万零下1.5度
 各地豪雨被害
 16号大雨
 第2室戸台風 被害10億円
 バス路線困る
 梅雨前線による局地大雨
 菊間沖濃霧タンカー貨物船衝突事故
 タンカー沈没
 県下69校臨時休校室内のもの皆凍る
 今治上水道配水管500ヶ所破損
 長雨被害あり
 3号台風
 9号台風通過
 松山では明治以来
 41米

6.18	"		
6.26	豪雨		
9.25		台風	
40.1.12			雪
6			
~7	豪雨		
8.6		"	
30	旱が い		
9.10		"	
9.14		大雨	
9.15	"	"	
17			
41.3.4			異常 気象
7.1	豪雨		
30	"		
8.14		"	
9.9		"	
9.20	"	"	
42.5.6			濃霧
7.9	"		
10.-	"		
10.3			
10.5	"		
27		"	
30	"		
43.2.4			豪雪

水争 松尾川上
 集中豪雨
 台風20号 本県縦断宇和島市風速71m被害31億円
 県下全般暴風雨
 豪雨6/20 7/5 7/18
 台風15号
 23号高知上陸
 西日本
 24、25号連続四国全線運転休止
 県下
 8/13県干害対策本部
 13号県下33日振りの雨
 19号伊予灘北上
 21号 床下162 田45ヘクタール 畑埋没8ヘクタール 道路9 橋流失1 堤防決壊4 山崩5 被害総額4,115万円
 5/11貨物船衝突 6/14漁船あて逃げ
 西日本集中豪雨 関前波方宮窪9人死者 田尻汽車脱線 今治大島時化天災融資法適用202億円菊間町果樹旱害4億6,000万円
 干害非常事態宣言 対策本部
 87日振りの雨 10/24 松山市水道67日振制限解除
 34号台風
 干害被害255億円と発表
 果樹6億600万円 山林7億2,100万円
 有線1,070万円 町内20cm 山間部50~90cm
 有線180回線2,150戸通話不能
 18日迄列車時折動く 3/8根雪消える

2.28			〃	豪雪被害 111億円
7.2	大雨			県下大雨 交通寸断
28		台風		松山通過
8.28	〃			県下大雨汽車不通31日迄
9.25		〃		16号海空ダイヤ乱れる 173ミリ
				床下浸水 200 田冠水20ha 道路決
44.7.8	〃			潰30ヶ所
8.22		〃		7、8両日
12.3		強風		台風9号宿毛上陸
45.7.5	〃	台風		県下強風24m
8.15		〃		雨台風
21		〃		被害あり
				(10号愛媛直撃 松ヶ崎44m 汽車
				不通(別記))
30		〃		風大被害 菊小38m
46.8.30		〃		23号南子上陸
47.6.8	〃	〃		南子上陸
				110ミリ 町道7ヶ所200万 県道3
9.9	〃			ヶ所 溜池3 100万
				今治地方集中豪雨 岩童子線路流失
				149ミリ 床上15 床下427 冠水田
				40ha 畑15ha 道路236 橋梁4
				鉄道2ヶ所 通信被害8ヶ所 山崩
				63 農水路42 溜池21 被害総計
				3億290万円
15		〃		15号
48.5.8		強風		台風なみ
6.27	〃			山崩れ